

全ての子どもが輝くために、充実した支援を目指して

NO. 13

特別支援教育推進通信

平成29年11月10日

葛南教育事務所 指導室

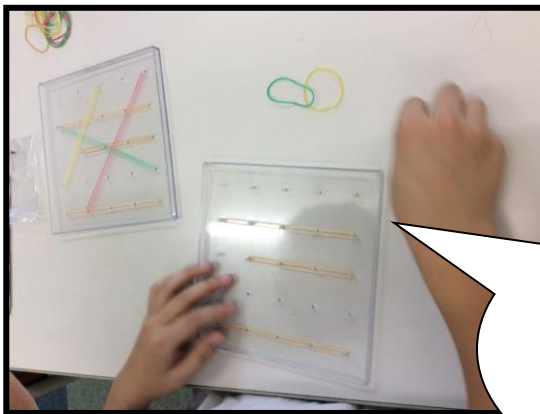
特別支援教育班

個別の配慮を必要とする子への支援（その2）

今回の13号では、前回紹介をいたしました「事例Aさんについて」の続きとなります。指導の中では、その子の困難さを克服するための、段階の状況に応じた様々な指導内容が工夫されています。ここで学んだことを他の場面でも生かし、「できる」「わかる」といったことが多くなり、「自立」に向けた力が育つことを願っています。

一人一人が輝くための支援

☆点をつないで字や図を作ることで、視空間認知を高めます。



その4

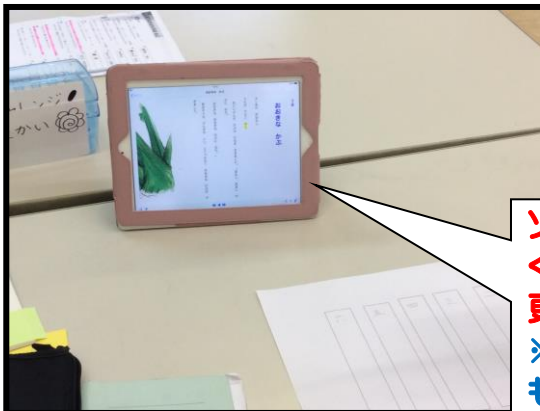
見本を見ながら同じ物を輪ゴムを使って完成させます。輪ゴムの色やかかっている場所を意識しながら行いました。最後に見本のボードと重ねて答え合わせをしました。

初めは見本のボードを重ねて、完成させました。ポイントをつかみ慣れたら、手本を横に置き挑戦しました。

Point

作った図形を左右反転したり、回転したりして、形の変化を体験します！

☆学びを保障するための一つのツールとしてICT機器の活用が考えられます。



その5

読むことに困難さがある子どもには、ICTを活用しました。文章の読み上げやどの部分を読んでいるのかの色を変えての表示により、学習の定着に向けて取り組みました。

ソフトの機能を使い、その子の聴く力に応じて、読むスピードを変更できます。
※漢字のルビ振りや見やすい色にも変更可能です。

Point

初めからこのようなICT機器を使用するのではなく、その子の状態に合わせた使用が大切です！

☆お手玉やバランス器具を使ったトレーニングを実施しました。



その6

お手玉を使用しました。①教師のお手玉を見る。②自分が行う。③相手のお手玉をキャッチする。の様に難易度を上げていきました。

家庭でも手軽に保護者と一緒に取り組めます。

Point

動く物を目で追い続ける！



その7

からだ全体を大きく動かし、感覚面の弱さにもアプローチをしました。同時に「その6」をグレードアップした内容にも取り組みました。

トランポリンを跳びながら的当てをしたり、教師の出す指の数を答えたりしました。



Point

動きながら目標を見つけ、その目標を見続ける！

個別の指導計画の作成と活用

「その1」から「その7」までの支援をするにあたり、Aさんが現在困っていることや様子を、本人、保護者、在籍学級担任、通級担当教諭が情報を共有し、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成しました。

このように個別の支援を行っていく上で個別の指導計画を作成活用するとともに、その支援の成果を評価し、次へのステップを考え検討していくことが大切です。

これまでの特別支援教育通信NO. 7～NO. 11も参考にしてみてください。

